

ペア・ミニディスカッション【生徒用・課題カード】

Class _____ No. _____ Name _____

🎯 ゴール: 賛成・反対に分かれて、相手の意見を受けてから自分の意見を言える

場面 「中学生にスマホは必要？」——ペアで賛成役・反対役に分かれ、2往復のミニ討論。勝ち負けではなく「受けてから返す」が評価の的。

流れ: A意見→B「受けの一言＋反論」→A「受け＋再反論」→B まとめ
受けの技: I see, but... / That's true, but... / I understand your point. However...

役は当日コイントスで決定(どちらの立場も準備しておく)。

準備 テストまでにすること(授業2回)

お題2つで両方の立場の理由メモを作成→帯「賛成？反対？ライン」で瞬発練習→ペアで型どおり1回リハーサル。

本番 時間: ペアで3分 / 評価: 4観点×3段階(12点)

達成	相手に伝わったか・目的をはたせたか(いちばん大事！)
正確さ	今回の言語材料が正しく使えたか
流暢さ	止まらずに続けられたか(完ぺきでなくてOK、リカバリーも実力)
態度・やり取り	あいづち・聞き返し・相手への質問があったか

✓ 聞き返し(Pardon? / One more time, please.)は減点ではなく加点。本物の会話の技だから、遠りよく使おう。

ねらい

このテストは何を・なぜ測るのか

測る力	相手の意見を理解した上で、自分の立場から応答する力(双方向の議論)
なぜ必要か	「言いつばなしのスピーチ」から「かみ合う対話」への進化が中3の課題。当日コイントスで立場が決まる設計は、両論の準備＝多角的思考を強制し、思考力・判断力の評価と英語力の評価を一体化する。高校のディベート・探究活動への直接の接続。

評価

ルーブリック(B列＝評価規準「おおむね満足の姿」。採点前に一読してから始める)

達成	A(3点) 相手の意見を要約して受け、かみ合った反論ができた	B(2点)＝評価規準 受けの一言→自分の意見の型で2往復できた	C(1点) 自分の主張の言いつばなし
正確さ	A(3点) 意見・理由の文が正確	B(2点)＝評価規準 誤りはあるが議論は通じる	C(1点) 通じない
流暢さ	A(3点) 討論のテンポが途切れない	B(2点)＝評価規準 間はあるが往復が続く	C(1点) 停止
態度	A(3点) 相手の目を見て、受けの表現が自然	B(2点)＝評価規準 相手の発言を聞いて応じた	C(1点) 相手を無視

✓ C→Bの手立て: 条件を1つ減らして再挑戦の機会を(例: メモを見てよい・時間を短く)。再テストはB上限にせず、できた姿をそのまま評価する

運用

当日の流れ(2コマ)

1	ルーブリック(このページ)のB列を一読してから開始——「おおむね満足の姿」を採点の物差しとして頭に置く
2	課題カード(1ページ目)の場面と評価観点を全体で確認(2分)。聞き返しは加点、と必ず伝える
3	順番票にしたがって実施(ペアで3分)。採点はその場で記録シートに○をつけるだけ
4	待ち時間の生徒には観察メモ(よかった表現を1つ書く)または自習課題を指定
5	全員終了後、よかった例を2～3、名前を挙げてほめて締める(次回への空気づくり)

☆運用のコツ「どちらの立場も準備」がこのテストの学習効果の核(本当の思考力)。討論後に「本当は自分はどっち派か」を一言書かせると、態度の評価資料も手に入ります。

記録

その場で○をつけるだけ(A=3 B=2 C=1)

名前	達成	正確さ	流暢さ	態度	計	メモ(次への一言)
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	

✓ 印刷して名簿順に並べておくと、テスト中の記入が3秒で済みます。「メモ」は返却時のフィードバックの種——1語でOK。